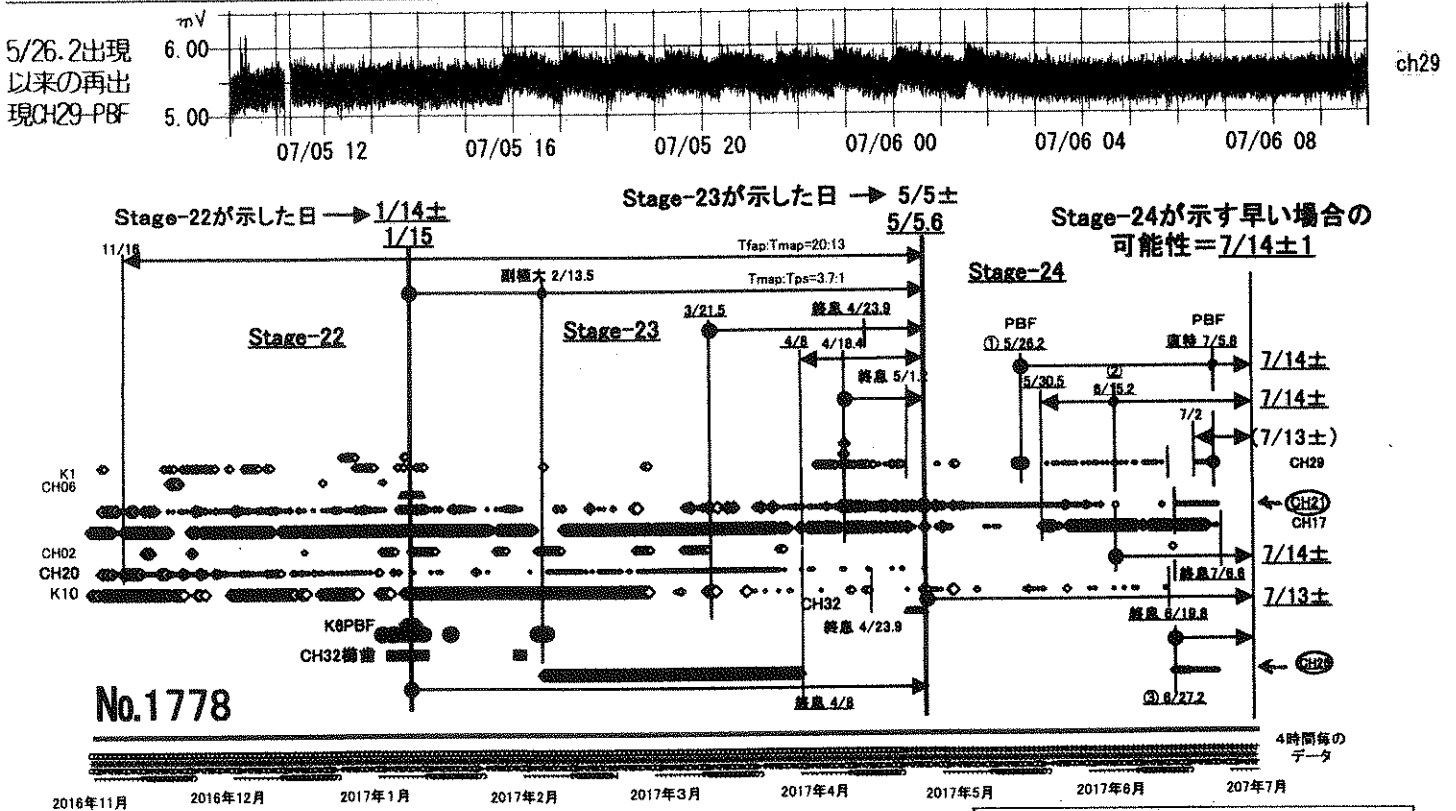


原稿校了後の前兆変化について

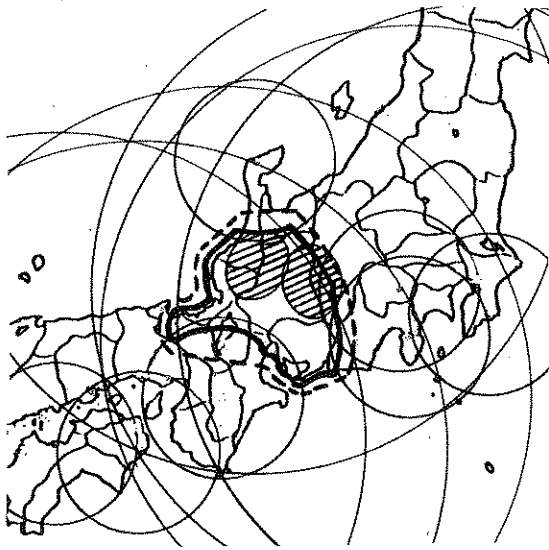
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期前兆現況報告 7/5 夜CH29にPBF 出現 (CH21, CH26 特異継続中)
修正: 7/14±1 の可能性 本推定が正しい場合=7/9-10終息推定←確認必要



No.1778長期継続特殊前兆第24行の動向から、7/4~6 に前兆終息が観測された場合は7/7~10発生の可能性を推定報告致しました。しかし上波形のとおり、昨夜 7/5夕刻から本日7/6 未明にかけて、5/26.2に50時間継続出現したPBF が再びCH29に10時間再出現。

6/27.2 極大に対する前兆終息と発生
7/09.2± 前兆終息した場合⇒7/13発生
7/09.9± 前兆終息した場合⇒7/14発生
7/10.7± 前兆終息した場合⇒7/15発生



- ◆推定領域: 左図
点線領域内=大枠推定領域
太線領域内=可能性考え易い領域
(斜線領域付近=参考: 火山近傍域)
※火山近傍領域の可能性示唆される
※影響局の組合せでは福島領域周辺の可能性も出るが辻褄が合わない
前兆有。左図領域の方が考え易い
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 前兆完全終息確認必要
7/9~10前兆終息の場合=7/14±1
※7/11以降前兆継続の場合は再考
- ◇推定地震種: 震源浅い日本列島地殻
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1時間
又は午後6時±3時間

このことから、前回までの前兆関係認識に誤りがあることが明らかとなりました。CH29のPBF は5/26.2中心で約50時間今回は7/5.8 中心で約10時間のPBF です。5/26.2極大に対する直前特異として出現した場合=7/14±を示すこととなります。ちなみにCH29の特異状態継続出現初現の7/2 を初現~7/5.8 極大として計算した場合も7/13±を示します。このことから第24行の前兆関係を更に見直しました。上図中記入の関係が可能性として考えられます。現在継続中の前兆はCH21・CH26の特異前兆のみです。7/14±に仮に発生となる場合は、7/9~10に前兆が完全終息する可能性が計算されます。これが確認できるか否か、注意深く観測を続け続報予定。